

職業能力開発
の
現場から

真のプロフェッショナルを 育てる



埼玉県豊高等職業訓練校

開 校 ● 1969年4月
所 在 地 ● さいたま市南区松本1-12-3
認定職業訓練校 ● 職業能力開発促進法に定める基準に従い埼玉
県知事より認定
運 営 主 体 ● 埼玉県豊商工業共同組合

○全国初の全日全寮制

日本古来の伝統的な床材であり、生活文化に深く根付いている豊。埼玉県豊高等職業訓練校は、豊の仕事の技能と技術を継承する人材の育成を目的に設立された。同校は全国初の全日全寮制を導入。訓練期間は3年で、修了生はすでに600人を超える。

校長の山下栄志さんは、「先代の校長が、豊技能士の養成と伝統技能を残すため、自宅を開放して夜間の職業訓練所をつくったのが当校の始まりです。夜間から全日の訓練に移ったのは、訓練所の設立から3年経過した頃、先代の校長が『技術だけではなく、教養を兼ね備えた人材を育成するには全日全寮制が必要』と考えたためです。

また、技術を修得するには少なくとも3年は必要です。短期の訓練で身につくものではありません」と話す。

教育方針は「心・体・技」。技能士であるとともに良き社会人であれという願いが込められている。

○技術の修得には

とにかく同じ作業を繰り返す

訓練生は中学校卒業生から社会人経験者と幅広いが、高校の卒業生が一番多い。1年生は寮生活で社会人としての心構えと、豊工作法や建築構造などの学科や基本実技を学ぶ。2年生になると寮を出て、訓練校の指導員が在籍している各事業所で応用実技や機械操作を修得する。2、3年生は、特定の日に訓練校に登校して集合訓練を実施。主に2級技能検定の合格に向けた実習訓練を行う。

訓練生は修了時に「技能士補」と認定され、修了後に2級技能検定を受検する際に学科試験は免除される。家業の豊店を継ぐ修了生も多いが、10年近い修業を経てから独立する人もいる。

現在の在校生は10人。内訳は1年生4人、2年生3人、3年生3人。寮では交代で日直も務める。訓練は9時から5時まで。現場では8割から9割が機械作業、残りが手作業になる。手縫い作業の時は力が入りやすい正座で行う。

「訓練生は今まで正座をする機会があまりなかったでしょうから、初めの方は大変そうです。また、包丁を使って豊の藁を切り落とす作業があるので、これには力の入れ具合が大切です。訓練生は腕が未熟なので、力の加減が分かりません。何回やってもうまく落とせなくてイライラしてきます。切り落とすの技能をきちんと身につけておかないと先へは進めませんから、指導員は厳しく、時にはなだめながら、『とにかく回数をごなさなければだめなんだ』と何べんも訓練生に言っているんです」（山下校長）

訓練校の大事な行事として、埼玉県の小学校で実施されている授業「技の教室」への参加がある。

「ものづくりの大切さを子どもたちにもアピールする絶好の機会です。訓練生と指導員が一緒になって、豊座布団の作り方などを教えます。子どもたちに教えることによって、訓練生もいい勉強になります」（山下校長）

○自分自身が納得できるものづくりを

最近の訓練生の傾向として、「こつ



したい」という強固な意志が薄れているように感じます。精神面で弱い面があるので、何かイレギュラーなことが起きたときなど、それをバックアップするように心がけています」と話す山下校長。

最後に、豊技能士にとって大事なことは何かと伺った。

「先代の校長は『売れる豊より喜ばれる豊を作れ』とよく話していました。売れる豊であれば値段を安くすればいい。多少粗悪品でも売れるでしょう。そうではなくて、本物の豊、技術に裏打ちされた本物を作っていかなければいけません。うわべだけの、みとくれだけのものばかりを作っているのは、やがて豊産業も衰退していきます。

我々は技術の継承者の一員なので、自分自身が納得できるものを作ることが大事であり、訓練生にはプロとは何かと一口に目覚めてほしいと思います」